

年間第 18 主日 (ルカ 12:13-21)

持ち物を神と人にスムーズに引き継ぐ



先週は上五島の母親が外来治療に来ていたのですが、後半の治療を金曜日に終え、上五島に帰る五島旅客船の切符を窓口で買って渡し、福江港で別れました。私自身は、久しぶりに整骨院に行って治療をしてもらって帰ったのですが、まあ小一時間だからと思ってスマホを司祭館に置いていったのです。帰ってスマホを確認すると、母親本人からと、上五島の弟から、これでもかと言うほど不在着信が入っていました。

この日は高速船 TAIYO が機関故障で代船になっていました。運悪く、棧橋も本来の高速船の棧橋ではなく、第二棧橋で、しかも出発時間も 10 分早くなっていました。この条件で置き去りにされた後期高齢者が、乗るべき船が第二棧橋に来て、しかも 10 分早まっているなど分かるはずありません。乗れなかった母親は必死に電話をかけますが、わたしの電話は 1 時間以上、机の上に置きっぱなしでした。

整骨院の治療から帰るとまず弟から電話がかかりました。「船に乗れなかったからもう一泊させてくれって言ってるよ。」訳が分からず母親に電話をかけてみると先のような事情でした。可哀想にもう一泊司祭館の私の部屋で親子で過ごすわけですが、悪いことばかりではありませんでした。

皆さんの中にも、Amazon (アマゾン) というネット通販を利用して、しかも AmazonPrime (アマゾンプライム) の会員の方がおられるでしょう。つい最近、PrimeVideo (プライムビデオ) で、「教皇選挙」という映画の無料配信が始まりまして、母親に「この映画観るね？」と聞いたら「観る」というので、親子で映画鑑賞が出来ました。内容は、ネタバレにならない程度しか話せませんが、教皇様が亡くなり、次の教皇に引き継ぐまでの物語です。秘密の教皇選挙の中身を見事に演じていましたが、私は「映画は映画だよ」と受けとめました。

今週の福音朗読を、「引き継ぐ」という切り口で考えてみました。ある金持ちの畑が豊作でした。誰でも豊作を喜ばない人はいないでしょう。この「豊かさ」を彼は引き継ごうとしたのですが、それは、すべて自分のため、自分の将来のためにだけの引き継ぎでした。「さあ、これから先何年も生きて行くだけの蓄えができたぞ。ひと休みして、食べたり飲んだりして楽しめ」 (12・19)

この金持ちには多くの下働きがいたでしょうし、書かれていませんが、家族もいたでしょう。目の前の豊かさを「この世の豊かさ」としてしか考えなかったのです。ひと休みする。食べたり飲んだりする。楽しむ。どれも良いことには違いありませんが、それが「この世のためだけになされる」のであれば、神の前には愚かなことなのです。

「豊作」を与えたのは誰でしょうか？神ではないのでしょうか？そうであれば、神に感謝しながら、しもべたちに感謝しながら、家族に感謝しながら「豊作」「豊かさ」の引き継ぎ方を考えるべきでした。自分た

ちでは使い切れないほど恵まれたのですから、積極的にほかの人のために、何よりも神のために使うことを考えるべきでした。

少しヒントになればと思うのですが、最近のスマホはえらく秀逸で、古いスマホから新しいスマホに引き継ぐのがびっくりするほど簡単になりました。古いスマホと新しいスマホをケーブル一本繋ぐだけ、あるいは二つを近づけるだけで引き継いでくれます。かつての面倒くさい引き継ぎを知っている私のような世代には信じられない便利さです。

ただ、すべてを引き継いでも、安全対策は残ります。ここで福音朗読のたとえのように「自分だけが開いたり閉じたりできるように」、自分のためだけの暗証番号や、指紋認証をすると、そのスマホは「自分のためだけのもの」になります。普通はそうするでしょう。

しかし、ほかの場面が考えられないことはありません。もう一人、別の人と「暗証番号」を共有したり、もう一人の人の「指紋認証」を登録すると、通常の利用者にもしものことが起こった場合、そのスマホの情報を適切に処理してもらえるでしょう。中田神父はこの五年で二度、命の危険を味わったので、二度目の時に暗証番号をある人と共有することにしました。もちろん、自分が信頼できる人です。

自分が得たものを、自分のためだけに用いることは、案外危険なことです。今週の福音朗読がそれをよく教えてくれます。自分のものと言っても、究極的には神のものですから、神がその持ち物を神の望むように使うことを受け入れて生きるほうが、実際はより安全であります。

たとえとして出したスマートフォン、私一人しか操作できないとなると、もしもの時にはただのガラクタになってしまいます。私のスマホには長崎教区に関する大量の情報が収められているので、信頼できる人が開けるようにしておけば、少なくとも無駄にはなりません。

神も、私たちに同じことを望んでいると思います。あなたの持ち物は、あなただけが使っても構いませんが、あなたの心に思い浮かぶ人のため、また神さまのために、持ち物の使い方を共有しておくと思いいます。まあそれは遺言ということになるのかもしれませんが、限られた人生の中で、「愚かな者」にならないために、神の前に豊かになれるように、信頼できる人と持ち物の使い方を共有して、引き継ぎができるようにしておきたいですね。

私自身も、少し時間はかかるかもしれませんが、自分の持ち物を自分だけのものにせず、スムーズに引き継げるように準備をしておきたいしたいと思います。自分のために富を積んだとしても、その富は積みば積むほど、手に余る量になります。神の前に、多くの人の前に豊かな人生設計を考えたいものです。

年間第 19 主日(ルカ 12:32-48)